

1 授業日時 令和8年5月13日(水) 1時間目10:25~11:10 2時間目11:15~12:00

2 参加校 Ch1:東広島市立造賀小(4年14名)、木谷小(5・6年20名)、龍王小(3年183名)、広島市立基町小(6年13名)

Ch2:東広島市立松賀中学校SSR、豊栄フレンドスペース、西条フレンドスペース、スクール“S”、われんきゃハウス(鹿児島県徳之島町)、あすなろ(安芸高田市)


3 学年・単元名 小3~6 学校の当たり前を問い直す -「正しく話す」だけでいい? 思いが届くことばとは?-

## 4 授業前の準備

- DCCきつずから、事前アンケートに回答させてください。

## 5 本時(第1時)

目標：外国語を話す人たちは誰もが自信をもって正しく話しているわけではないことを知り、ことばを「上手に話す」ことの意味を考えることができる。

学習活動 ※全体(全)・教室(教)・個人(個)	予想される生徒の反応(例)	指導上の留意点
<p>&lt;導入&gt;</p> <p>1. 外国の言葉と向き合う自分について振り返る(15)</p> <p>(1) 事前アンケートから、参加児童は何語が使える人が多いか確かめる(全)</p> <p>(2) 先生(大人)は何語を話せるか確かめる(教)</p> <p>(3) ALTは何語を話せるか確かめる(全)</p> <p>(4) 英語を話すときの自信を確かめる(個)【のん太アンケート①】</p> <p>①自信がある、②少し自信がある、③あまり自信がない、④自信がない</p> <p>→どうして自信がないの?</p> <p>→「上手」ってどういうこと?</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• やっぱり日本語が一番多いね</li> <li>• 事前アンケートによれば、英語、中国語、ベトナム語、意外にいろいろあるね</li> <li>• 基町小学校はいろんな言葉が使われているね</li> <li>• 旅行のときは、英語を使うことが多いんだな</li> <li>• 先生たちも話せる言葉はあるけれど、自信はないみたいだね</li> <li>• ALTの先生は、英語のほかに、日本語も少し話せるんだな</li> <li>• 日本語で話すのは緊張するんだな</li> <li>• 英語は習っているけれど、話すことに自信がない人は多いなあ</li> <li>• 子どもも大人も自信がない人がいるなあ</li> <li>• 上手く話せないと言いが生まれないよなあ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 児童端末を起動させておく。</li> <li>• 外国の人と話す機会が増えていることを紹介する</li> <li>• 【中継①】外国籍児童が多い基町小の特徴を伝える</li> <li>• インタビューカードを学級で完成させる。学級担任は、カードの情報をカメラの前で発表する</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 【中継②】龍王小ALT</li> <li>• 学級の児童の回答状況と比較させ、誰もが自信をもって話しているわけではないことを捉えさせる</li> </ul>
<p>学習課題：外国の言葉が上手な人ってどんな人だろう？</p>		
<p>&lt;展開1&gt;</p> <p>2. 話し上手について考える(30)</p> <p>(1) 新幹線の英語放送を聞いてどちらが「話し上手」かを考える(教→全)</p> <p>→動画①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 録音した外国の人の声</li> <li>• 車掌さんの生の声</li> </ul> <p>(2) 車掌さんが生放送をしている理由を考える(教→全)</p> <p>→動画②</p> <p>→理由を考える→発表する</p> <p>(3) お客さんの反応を動画で確認する(全) →動画③</p> <p>(4) 改めて外国語の「話し上手」な人とはどんな人かを考える(教→全)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 外国の人の声は、上手だな</li> <li>• 車掌さんの声は、外国の人に比べるとちょっと上手ではないかな</li> <li>• 車掌さんの声も、結構分かりやすいよ</li> <li>• すらすら話せるっていうことが「話し上手」なんじゃないかな</li> <li>• 何か緊急事態に対応するためかな</li> <li>• お客さんに直接伝えたいからかな</li> <li>• 外国の人を呼ぶのが大変なのかな</li> <li>• 心を込めた対応をしたいのかな</li> <li>• すらすらかどうか、あまり気にしていないね</li> <li>• 自分たちに向けて話してる感じがするのかな</li> <li>• すらすらだけじゃなく、「相手を思って話す」というのもありそうだ</li> <li>• 上手になろうとする思いも大事かな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2つの場面を見比べ、話し合う</li> <li>• 動画を視聴する前に、どんな人が話し上手かを予想させる</li> <li>• 【動画①】新幹線の2つの英語放送を比べさせ、違いを板書する</li> <li>★AIアプリ</li> <li>• 学級で出された「話し上手」についてカメラの前で発表させる</li> <li>• 【動画②】車掌さんの生放送を取り上げている動画から、その理由を考えさせる</li> <li>• 教室で意見を交わした後、考えを学校間で交流する</li> <li>• 【動画③】お客さんの声</li> <li>• 教室で意見を交わした後、全体で考えを交流する</li> <li>★AIアプリ</li> </ul>

## 6 本時(第2時)

目標：話し手の気持ちを考えながら聞くことの大切さに気付くことができる。

学習活動 ※全体(全)・教室(教)・個人(個)	予想される児童の反応(例)	指導上の留意点
<p>&lt;展開2&gt; 3. 聞き上手について考える(25)</p> <p>(1) 基町小学校の放送の様子を見る(全)</p> <p>(2) 放送している児童の気持ちを想像する(教)</p> <p>(3) 外国から来て間もない児童が、どんな気持ちで普段放送しているのかを聞く(全)</p> <p>(4) 放送を聞く人の気持ちを想像する(教)</p> <p>(5) 基町小の校長先生の話聞き、「聞き上手」について考える</p>	<p>・転校してきたばかりなのにすごいな</p> <p>・緊張するんじゃないかな</p> <p>・ドキドキしていると思う。日本語が得意じゃなかったら不安だから</p> <p>・頑張ろうと思っていると思う。早く日本語を覚えたいだろうから。</p> <p>・やっぱりちょっと緊張するときもあるんだな</p> <p>・得意じゃないと言ってるのにすごいな</p> <p>・はじめは恥ずかしかったんだな</p> <p>・応援していると思うよ</p> <p>・応援はしているけれど、あまり気にせず当たり前前に聞いていたな(基町小)</p> <p>・話し手が伝えたいことやその思いを想像しながら聞くこと、それが「当たり前」になることが大切なんだな</p>	<p>・放送の経緯を補足する</p> <p>・【動画④】基町小の放送</p> <p>・【中継③】基町小で実際に放送している児童</p> <p>・基町以外の小学校：想像しながら考える ★AIアプリ</p> <p>・基町小：普段どんなふう聞いていたかの点から考える</p> <p>・基町小は最後に発表させる</p> <p>・【中継④】基町小校長</p>
<p>&lt;終結&gt; 4. 「上手」の意味を考える(15)</p> <p>(1) 「外国の言葉が「上手」な人とは○○○な人である」の文章を完成させる(教) 【スプレッドシート】</p> <p>(2) 文章を発表する(全)</p>	<p>・相手を思って話したり聞いたりする人</p> <p>・恐れず話すことができる人</p> <p>・相手の気持ちを考えられる人</p> <p>・思いやりを持って聞ける人</p> <p>・相手によりよく伝えようと頑張れる人</p>	<p>・学級担任(支援員)は、児童の意見をまとめ、スプレッドシートに記入する。</p> <p>・出てきたものを「話す側」「聞く側」「両方」の視点で整理しながらTIがまとめる</p>
【まとめ】外国の言葉が「上手」な人とは、「相手を思う気持ち」をもって、話したり聞いたりできる人である。		
5. 本時の学習を振り返る(5) 【のん太アンケート②】(個)		・児童の端末で各自回答

## 7 教材・教具・ICT関連

- インタビューカード
- 人物カード
- 動画① 新幹線の英語アナウンス音声の比較(自動音声・生放送)
- 動画② 車掌さんの生放送を取り上げている動画
- 動画③ 車掌さんの生放送を聞いたお客さんの声
- 動画④ 基町小学校の外国からの転校生の放送委員の音声
- 教具I 情報共有サイト(DCCきっず)に接続した児童端末
- スプレッドシート

## 8 授業後の展開(例)

- 外国語活動や外国語の授業の際に、本時の授業でつくった「外国語が上手な人」の文を思い出したり、教室掲示しておくことで、どのような姿勢が大事だったかを思い出しながら学べるようにすることができます。
- ALTの先生、学校外で外国から来た人と交流する場面で、お互いの話す言葉(日本語、英語、その他の言語)を話したり聞いたりするときの姿勢としてつなげられます。
- 外国から転校してきた児童がいる場合、学級で発表することが苦手な児童がいる場合など、今日の学習のことに触れながら、話すこと、聞くことの両面から互いに支え合う大切さを考え支えることにつながります。
- 外国語でなくても、普段の日本語で行う学級内の発表活動でも、「すらすら発表する」だけでなく「迷いながら、いっしょうけんめい発表すること」の大切さを伝える際にも、今日の授業のまとめを活用することができます。